

経営理念		【保育目標】 げんき のびのび のいちっこ 【経営目標】 一人一人の子どもを大切にし、保護者に信頼され、地域に愛される保育所をめざす 《子ども像》 ・自分のことは自分でしようとする子ども ・思いやりの心をもつ子ども ・自分で考える子ども ・人の話を良く聞き、自分の考えや思ったことを話せる子ども							
中期経営目標		短 期 経 営 目 標（評価項目）		自 己 評 価		学校関係者評価		改 善 策 等	
				達 成 状 況	評価	考 察	評価		
適正な保育所経営	職務分担が適切に機能し、子どもたちのために職員がお互いに協働する保育所を構築する。	①	担当した園務・職務について、報告・連絡・相談に努め、情報を共有する	職員会とは別にケース会として特別支援児の状態や取り組み、支援の必要な家庭の様子を報告し共有する場を毎月もち、共通理解を図った。ヒヤリハットの報告書を確実に回覧し、その後の事故防止につなげた。	A	職員数が多く、情報の共有が難しいが、全職員が同じ方向に向かって保育をしていくためには、情報共有が大切である。昨年度の課題をクリアしようと、職員会と別に共有する場をもったり、報告書や事例の共有をする等たくさんの改善したことで、報告がいきわたるように努めてきたことは大きな成果といえる。	A	今年度良かった全職員でのケース会やヒヤリハットの報告書の回覧は、次年度にも引き続き行い、確実な職員間の情報共有が図れる仕組みを作っていく。	
		②	防災計画・避難訓練実施案について新たな課題を見つけ、防災マニュアルを改善する	毎月の避難訓練では、様々な時間帯・場所における地震や火災の発生を想定して訓練を行った。毎回、実施案に基づき動きの確認をすることで職員の共通理解を図ることができた。昨年度の反省を活かし、今年は毎回、職員皆で反省をして課題を見つけ話し合うことができ、より職員の意識を高めることに繋がった。	A	毎月職員間で、共通理解をしたうえで避難訓練を実施し、防災マニュアルを見ながら反省会を行っていることで実践に則った独自のマニュアルに改善されていることが分かる。次年度は、新たな想定を考え実行しようとしているとのことで、様々な場面のマニュアルがあることは心強く、今後に期待したい。また、台風や水害時の避難等も検討しておくとう良い。	A	次年度はさらに新たな想定（散歩時・土曜保育・早期保育等）での訓練も行いたい。また、避難後の行動、避難所運営や備蓄品の整理などが、課題として残っているので、市の防災対策課とも連携しながら進めていく。	
充実した保育内容	保育指針に沿って、乳幼児の発達に即した保育を展開し、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う。	①	ねらいに沿った適切な指導を展開し、さらに改善を継続していく指導計画を改善していく	毎月、乳児と幼児に分かれてその月の評価反省と次の月の計画を話し合う場をもち、職員間で共通理解することに努めた。また、それぞれのクラスで子どもの発達や姿から保育を振り返り、ねらいに沿った評価反省を行い、週日案の計画を立案できた。複数担任のクラスでは、評価反省や次週の大まかな計画も一緒に考えることで同じ方向で保育することにつながった。しかし、中には週日案の作成が後手になるクラスもあり課題となっている。	B	複数担任のクラスで同じ方向で保育をすることが実践され、その大切さを実感することができていることは大変評価できることである。コロナ禍でありながら良く工夫がされていたように思う。しかし、計画が後手になるクラスがあったとの事から、さらなる改善に期待をしたい。	B	引き続き、月案、週案の会を定期的に行い、それぞれの学年が他学年の活動も把握したうえで、計画的に場や時間の保障をしながら保育の充実を図る。	
		②	子どもの主体的な学びを保障するための環境構成を行う	職員は、子ども達の活動が主体的なものとなるように、子ども達の興味や関心を丁寧に読み取り意図的に環境を整えていた。子ども達が自分から好きな遊びを選ぶような遊びを準備し、多くの子どもがしたい遊びをみつけ自ら遊んでいたが、８０％にとどまり、十分ではない。	B	成果指標が９０％ということが高かったようだが、環境構成は十分整ってきているように思う。今年の課題を次年度へとつなげ、タイミングを逃さないよう感性をくすぐる経験を積めるように期待をしています。	B	子どもの感性をくすぐる経験を積ませるためには、季節やその時期にあった遊びをタイミングを逃さないことが大事となる。保育を計画する時に天候や気温、風などの自然をある程度予測をしていくことも行っていきたい。また、保育者が遊びの楽しさを知っていることも大事となるので教材研究を続けていく。	
		③	十分に体を使った遊びを積極的に保育に取り入れる	各年齢で体操やリズム運動を定期的に組み入れて子どもが自分の体を動かすことに意識をもてるような時間を作ってきた。保育者自身がモデルとなり一緒に遊びに参加し、多くの子どもが、体を動かす心地よさを味わい繰り返し体を動かして遊び楽しんでいた。また、挑戦することの喜びや楽しさを感じている子どもが多く見られた。	A	子どもの人数に対し、園庭やホールの広さが狭いけれど、園庭がうまく使えないため、諦めるのではなく、工夫改善を積み重ねて意識をしてきたことで、子どもの姿に大きな変容が見られてきたことは大きな成果といえる。	A	遊びによっては園庭を広く使うことが必要な場合もある。学年で時間をずらして使うなど、その年齢で経験させたいことが実現できるように場や時間の保障を行っていく。そのために、翌週の園庭の使い方を学年間でしっかりと話し合って保育を進める。	
信頼される保育所	保護者や地域に開かれた保育所づくりに努め、信頼される保育所を確立する。	①	お便りの内容について工夫・研究をして発行する	保護者にとって保育所での子どもの様子が分かりやすいように、各学年でドキュメントを作成したり、便りに写真を多く取り入れたり工夫をしてきた。また、子どもの活動内容を知らせながら、それぞれの年齢の発達の特徴を入れたり、その活動で子どもが経験することや育つことをいれたりなど、保育の意図を入れて伝えることも努めた。	A	お便りについては、写真をたくさん載せて子どもの様子が分かるようにしており工夫、努力が伝わってくる。一つ一つの活動がもたらす発達への効果などを記載することは、保護者にとっても学びの場になるので、これからも見て楽しい、学べるお便りの発信を続けて頂きたい。	A	保護者アンケートより、クラス全体の様子とは別に自分の子どものことを知りたい思いの強さを感じられる。こうした保護者の思いも受け止め、更に工夫をしていきたいと思う。また、同じ手紙でも読んだ保護者一人一人によって受け止めが違うので直接会話し伝える機会を大事にしていく。	
		②	生活習慣の大切さを保護者に伝え、一緒に子どもたちの定着を図る	基本的生活習慣の確立を目指し、のいちっこカレンダー、すくすくリズムカレンダー、生活リズムチェックカードを実施した。回収率は高く、保護者の関心の高さは感じられる。これらの取り組みを通して子ども自身がより良い生活習慣を知る機会とすることができた。一方、タブレットやスマホが子どもの中にも浸透してきている家庭では、生活リズムの乱れにもつながっている状況があり、今後の課題である。	B	生活リズムチェックカードなどの回収率が高いことは評価できるポイントである。家庭によって保護者の仕事の都合もあるので、生活リズムチェックカードなどのツールが保護者にとって後ろめたいものにならないように気を付けたい。ネット・スマホ依存の低年齢化が危惧されている現在、各家庭でのタブレットやスマホの利用状況やルールなどの実態把握も一考を。	B	今後は取り組みをしていない時期でも子ども達への働きかけを定期的に行い、子ども自身が自分の生活習慣を考えられるようにしたいと考える。また、タブレットやスマホでYou Tubeを見たがる子どもの姿があり、就寝時間の遅れにつながっているなので、家庭への啓発を行っていく。	

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要